

ありまふじ里山だより

Vol.22

『ありまふじ里山だより』では、棚田里山エリアの自然の様子や里山保全に向けた取り組みについてご紹介します。Vol.22は里守の会の活動の様子と棚田で見られる野草についてお届けします。

里守の会、活動日！

まずは前回残ってしまった刈り残し箇所を午前中に刈り終わりました。山際に近いところは、ヤマフジの太い根が畑に侵入し、地表付近を縦横無尽に伸びています。畑づくりにとって障壁となりそうです。

草刈りがひと段落したところで、続いては過去に使われていたビニールマルチをはがす作業。マルチは劣化してボロボロに、くわえてマルチの上には土や草が積み重なり、はがすのも一苦勞でした。

最後に畑の広さを調べるため、測量をおこないました。とはいえ、畑の形は細長く湾曲しているため正確な計測は難しく、今回はおよその広さを測ることにしました。

今後は開墾作業をしつつ、畝の配置や作付け計画についても検討していきます。

畑仕事の始まり

棚田のまわりではタンポポやオオイヌノフグリ、ヒメオドリコソウ、ホトケノザ、タネツケバナなど春の野草がたくさん見られます。

タネツケバナは種籾を水に漬け始めることから種漬け花ともいわれます。春に向けて、畑仕事を始める季節ですね。

